

ブロック担当司祭、協力司祭、宣教司牧協力者
小教区評議会役員各位

2018年 小教区評議会役員交流会報告

2018年9月
福音宣教企画室

- テーマ：教会共同体づくり —お互いを生かし合うために—
- 対象：ブロック担当司祭、協力司祭、宣教司牧協力者、小教区評議会役員
- 講師：福岡一穂神父、大塚喜直司教（京都教区）
- 日時：2018年9月8日（土） 10：30～15：15
- 場所：カトリック京都司教区 河原町教会・ヴィリオンホール
- 参加人数：78名（信徒69名、修道者2名、神学生1名、司祭6名）

- 内容：午前 大塚司教のあいさつ、ねらいとグループワークの説明（福岡師）
小グループでの分かち合い
午後 模擬評議会、ふり返り、全体会

大塚司教あいさつの要旨

評議会役員は、信徒の意見を収集し、評議会として司祭とともに物事を決定していく役割を帯びている。共同宣教司牧は、皆が考え、共同体として一つの動き、一つの宣教をしていくのだから意思決定は重要である。教会共同体も役員もそれぞれに個性や考えがあるのは当然であり、その中で単なる多数決ではなく、「多様性の一致」を目指していきたい。今日は意思決定に参加する自分の姿勢をふり返り、変わっていくことを体験する。私たちは、信仰という基盤のもとに、神様の導きを受けて、聖霊が働いている共同体の中で識別をするのである。

本交流会のねらい（福岡師）（役員交流会資料②分かち合い「はなす、きく、みる」参照）

ねらいをもとに、バランスのとれた分かち合いをしていく中で、自分自身がどのような信仰の傾きをもっているのか、どのような共同体とかがわっているのか、これからどういう共同体を作っていくのかということを考え、気づきを得るきっかけになると良い。

ねらいにある「変化」ということに抵抗があるかもしれないが、信仰自体は変化しないが、それを受け止める自分の生き方と神様に対する応答の仕方は変化する。ひとりひとりが日々の生活の中で福音宣教をすると、自分が変化したり、相手によって影響を受けて自分を変えられる体験がある。今日は、人の話を聞いて自分自身が変えられる体験をしてほしい。それとともに、人の変化にも気づくようになると、「神様が働いている」と感じ、喜びになる。また教会共同体は変化していくということにも気づきたい。変化していく自分を感じながら、神様に感謝し、それに応えていく信仰を持つ、福音宣教していくエネルギーをもつきっかけになると良い。

グループワーク・分かち合いの手順（資料参照）

1. 5分ずつ、3つの役割（話す、聞く、見る・記録する）を順番に体験する
2. 全員終了後、メモ用紙から話に出た内容をふり返り、発表する内容・発表者を決める

模擬評議会

各グループからの代表12名と進行役の福岡師で評議会を行う。代表者がグループの内容（優先度の高いもの）を発表し、全てのテーマの中から話し合うべき内容を決め、話し合い、深める。

模擬評議会報告 →別紙（模擬評議会 まとめ）参照

交流会のふり返り

【福岡師】 通常分かち合いでは、発言する人とならない人の差が激しく、また事柄が多いので、今回は役割と内容を決めて行うことにより、その人そのものを見るという体験をしてほしかった。役員の役割は機能的なことをするだけでなく、信徒の気持ちを取り扱うという大事な役割もあり、細やかに信徒の気持ちを汲み取って、教会の運営に活かしていくことは大切なことである。今朝来たときと終わるときで、少し気持ちに変化してくれていれはうれしく思う。自分も模擬評議会で見聞を得てもらう中で、またこの人たちと一緒にやっっていこうという選りをする強い気持ちをいただいて、感謝している。

【一場師】 多様性の中で一致していくにはどうしたらいいのか。福岡師のキーワードは「変化」、自分が変化していくことだった。表現する、聞く、感情を大事にする、人を見る、皆で変わっていく、それが生かし合うということだと思ふ。自分も人も、変化しているということ意識していきたい。模擬評議会では、代表者は自分の後ろにいるグループの人たちの言ったことを大切に伝える、大切なものを委ねられているという気持ちでやっていたと思ふ。ひとりひとりが変わっていかなければ多様性の一致はできない。ひとりひとりが歩み寄っていくなら、多様性が深まりつつ、ひとつになっていくことができる。変化するためには、良いコミュニケーション、話す、聞く、思いを汲み取ることが大切だと気づかされた。

福音宣教企画室のふり返り

今回の交流会は企画の段階から福岡師に参加していただき、持ち時間を決めての分かち合い、そして模擬評議会などいつもとは違ったプログラムになりました。アンケート回答から見ると、ポジティブな反応が多かった一方、時間が足りなかったという意見も見られました。分かち合いは1人の話す時間は5分でしたが、必ず全員が話すこと、そして人の話を聞くこと、客観的に見ることから自分のふり返りにもつなげていくという趣旨だったため、分かち合いの深まりという意味では物足りなさがあったのではないかと思います。しかし、午前のグループワークに引き続き、グループで昼食を取っていただくことにした結果、情報交換や雑談をしながら交流でき、有意義な時間になったようでした。半日という短い時間の中でも、多くの気づきが得られ、より充実した研修会・交流会になるよう、来年も企画していきたいと考えています。